

令和2年度

定期監査結果報告書

淡路市監査委員

# 目 次

## 定 期 監 査

1. 監査の種類	1
2. 監査執行者	1
3. 監査期間及び対象	1
4. 監査の方法	1
5. 監査の着眼点	1
6. 監査の結果	2 - 4
7. (仮称)新津名図書館	5 - 9
8. むすび	10

## 令和2年度定期監査結果報告書

1. 監査の種類 地方自治法第199条第4項の規定に基づく定期監査

2. 監査執行者 代表監査委員 清水 宏  
議選監査委員 池本 道治

3. 監査の期間及び対象

実施年月日 令和3年1月25日(月)

監査対象課 教育部社会教育課  
津名図書館・東浦図書館  
岩屋図書室・北淡図書室・一宮図書室

現地監査 (仮称)新津名図書館

実施場所 (仮称)新津名図書館

4. 監査の実施方法

(1) 令和2年4月1日から同年12月末日までの、図書館(津名・東浦)及び公民館図書室(岩屋・北淡・一宮)の予算・事業執行状況について、適正かつ効率的に執行されているか、事前に関係資料の提出を求め、その内容の確認及び分析を行った。

(2) 所管する事業の取組の状況、課題、問題点について関係職員から質疑応答形式により聴取した。

(3) 令和3年3月28日開館予定の(仮称)新津名図書館について現地監査を行った。

5. 監査の主眼点

予算について、その執行状況、収入・支出、契約等の財務に関する事務が法令に適合し、正確に行われ、最少の経費で最大の効果を挙げようとし、その組織及び運営の合理化に努めているか、また施設や備品の安全点検は適正に実施されているか、市民サービスに努めているか、職員の研修養成に対する適切な措置の有無等を監査対象とした。

(仮称)新津名図書館については、令和2年12月末に建物の引き渡しを受け、書籍・備品の搬入中であつたが、施設内を確認し、建設に係る業務、今後計画されている新たな取り組みを重点的に、質疑応答形式により監査を行った。

## 6. 監査の結果

### 社会教育課 図書館（津名・東浦）

#### 公民館図書室（岩屋・北淡・一宮）

#### 【図書館の業務内容及び職員配置】

##### 1 業務の概要

- (1) 淡路市立図書館の管理・運営を行う。
- ・図書館資料の収集・整理・保存
  - ・図書館情報システムの企画・管理運営
  - ・図書館サービス策定のための企画・連絡調整
  - ・図書館協議会に関すること

- (2) 図書館・図書室職員数（令和2年12月末現在）

	職員数		
	一般職員	再任用職員	会計年度任用職員
津名図書館	2（館長含む）		8（うち司書2）
東浦図書館	1（館長含む）		4（うち司書2）
岩屋図書室		1	2
北淡図書室		1	2
一宮図書室		1	2

\*（仮称）新図書館開館にあたり、令和2年10月から会計年度任用職員を4名採用したことにより津名図書館は10名体制となっている。

##### (3) 事業費予算

需用費 10,868 千円（消耗品費 4,091 千円、光熱水費 5,561 千円等）  
委託料 56,452 千円（業務委託料 31,000 千円、設計監理委託料 19,200 千円）  
使用料及び賃借料 5,007 千円（機器使用料 1,886 千円、借地料 1,640 千円）  
工事請負費 782,540 千円（（仮称）新図書館工事請負費等）  
備品購入費 56,639 千円（庁用備品購入費 15,045 千円、図書購入費 41,480 千円）

## 【歳入・歳出執行状況】

図書館事業の令和2年度歳入予算額は7億9,677万円余で、歳出予算額は9億3,605万円余である。今年度については(仮称)新津名図書館建設にかかる予算が歳入歳出ともに計上されており、12月末時点で部分払い2億3,900万円を支出している。

通年の歳入予算は図書カード再交付代等21,000円で、12月末時点での収入済額は10,100円である。歳出予算は施設維持管理のための需用費や図書購入のための備品購入費である。図書の購入は書店組合と契約により毎月1回執行されている。

津名図書館 予算 図書購入費4,750千円、逐次刊行物761千円  
東浦図書館 予算 図書購入費4,750千円、逐次刊行物771千円

## 【公共施設借地料】

津名図書館敷地1182.85㎡を合計1,639,776円支払いしている。

## 【図書館・図書室利用状況】

	蔵書冊数	貸出冊数	利用者数	新刊購入数
津名図書館	160,235	70,788	15,788	2,241
東浦図書館	134,022	45,141	9,376	1,453
岩屋図書室	10,003	1,960	675	221
北淡図書室	32,318	8,583	2,024	344
一宮図書室	19,366	7,907	1,716	396

\* (仮称)新津名図書館は17,700冊新刊を購入し約178,000冊の蔵書冊数となる見込みである。

蔵書冊数は人口5万未満の市区で全国10番目である。(2016年資料)

\* 新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令を受け令和2年4月10日~5月31日まで臨時休館、また津名図書館は引っ越し作業で11月16日以降臨時休館している。利用者数や貸出冊数から分析する運営の費用対効果指標について、今年度は難しいといえる。

\* 廃棄プロセスについては、各館に2名配置の図書館司書が除籍廃棄に関する規定に基づき本を選定し、決裁後、図書館システムから除籍する。

図書バーコードを外し、淡路市のスタンプを消して処分するが、比較的状态がよく、市民の方に読んでもらえそうなものは、リサイクル本フェアで一般の方に無償提供し活用してもらおう。公民館3室についても同様の手順である。

## 【市民の利用促進を意識したサービスや図書館事業の企画などの取組】

### 図書館サービス計画策定に向けた市民ワークショップを開催

ここ数年、建設にかかるワークショップや検討委員会を開催していたが、完成した図書館をいかに充実させていくか、利用者のニーズに応えられるよう、今年度3回の計画で市民ワークショップを開催した。コロナ禍の緊急事態宣言の発令を受け開催が延期になったりと大変苦労した。

図書館サービス計画策定において、図書館に求められる機能やサービスを充実していくための検討を重ね、今年度のように、臨時休館した際でも地域における役割を果たしていきたいと考えている。

### 絵本の読み聞かせや特別展示

市内全館で、絵本の読み聞かせ会を開催しているが、今年度、東浦図書館では、ALTによる「英語の本の読み聞かせ」を初めて開催し、地域性を活かした特設コーナーも企画した。東浦図書館は「花の図書館」というテーマがあり、もともと花づくりが盛んな地域である。家庭での野菜づくりやガーデニングなどを楽しむ市民が多く、今回、景観園芸学校の協力により「ガーデニングなどのお勧め本」を特別展示した。

また、地元出身の著名人がお勧めする書籍コーナー開設を企画している。

今後も引き続き、ニーズを調査しつつ、地域に根ざした事業の展開を検討している。

### 「図書館×まちづくり」プロジェクト

明石市・西脇市など先進的な取り組みをしている他市との情報交換会や、運営に関する人脈づくりのため、研修会に積極的に参加した。(一部オンライン研修もあり)

当市は、読み聞かせのボランティアグループが2つあり、30年間継続して活動いただいているが、今後は図書館運営に関しても協力いただける市民サポーターを形づくっていききたいと考えている。

## 7【図書館建設までの道のり～淡路市立図書館基本計画～】

淡路市立図書館基本計画は、文部科学大臣から示された「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に基づき、今後の淡路市の目指す図書館の指針を定めるものであり、当市の図書館は、この指針に基づき、地域に必要な図書館機能の充実を図り、より多くの人が集い・交流することのできる「ひと・知識・情報との出会いの場」となるよう市民サービスの向上を目指すことを目的として平成29年3月に策定された。

この基本計画を策定するにあたり、当市の図書館の現状と課題が挙げられ、図書館に関する住民意向調査の結果、施設面での「津名図書館老朽化への対応」と「学習スペース、ゆとりある読書スペース」など施設機能への対応が求められた。

その後、建設予定地など検討を重ね平成30年度予算において議会の議決を経て、淡路市志筑新島しづかホール隣りに着工する運びとなった。

工事期間は令和元年12月から令和2年12月25日完成。

令和3年3月28日この春オープンである。

### 基本コンセプト「ひと・知識・情報との出会いの場」

『誰もが気軽に集える人と人との出会いの場』



広々とした市民交流エントランス ここから図書の世界へいざなう。地域性を活かした展示や人々が集う場となる企画が計画されている。

『読書を始めるきっかけとなる書籍・読書・知識との出会いの場』



利用分析では10代20代の利用率が低い。「新しいものに出会う楽しさ」を感じてもらえるようコーナー作りに工夫を凝らしている。

ティーンズコーナー（淡路島の形を模したオリジナルテーブル）



集中できる学習スペース



開放的な窓の前の読書スペース



知的好奇心を引き出す展示の工夫



活動室

『市の情報拠点として、収集・保存する各種情報との出会いの場』



市民の情報拠点としての役割。  
サイネージ



インターネット環境を整備

地域の情報収集・資料の保管  
個人のリーディングスペース



隠れ家？

未来を担う  
若者達お気  
に入りの場  
所となるだ  
ろう。

【つなこどもライブラリー】



親が見守るスペース、遊び心や円が意識されたつくりとなっている。



カラフルな子どもトイレ



こどもライブラリー入口絵本の木

図書館は、知識と好奇心を満たしてくれる書物の宝庫である。施設内には、授乳室など幼児向け設備も整っており、のびのびと絵本と触れ合うことができる空間づくりとなっている。

コーナー奥には、読み聞かせルームや階段書棚があり、絵本の読み聞かせ以外にも児童や子育て世代を対象とした行事ができる。

市民交流エントランスと共に図書館の随所に機能的な活動室があり、育児相談などをこちらで開いたり、立地を活かしたイベントを開催し是非、にぎわいをつくってほしい。子どもの好奇心と笑い声あふれる空間となることを望む。



延床面積 1983.14㎡  
 構造規模 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造 1階  
 可能蔵書冊数 20万冊（閉架書庫含む）  
 令和3年3月28日開館予定



**(仮称) 新図書館建設事業費の予算概要 1,026,266千円**

- ・ 工事請負費・・・856,540千円 (内訳) 令和元年度 100,000千円 (前払い金)  
令和2年度 756,540千円
- ・ 設計委託料・・・54,647千円 (内訳) 平成30年度 11,988千円  
平成30年度 17,667千円 (繰越)  
令和元年度 24,992千円
- ・ 監理委託料・・・24,200千円 (内訳) 令和元年度 5,000千円  
令和2年度 19,200千円
- ・ 新築移転に伴う配架整理・図書等移転業務委託料・14,834千円
- ・ 業務委託料 システム関連整備委託料31,000千円 (セキュリティーゲート設置費 13,684千円等)
- ・ 書架椅子等備品購入費・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15,045千円
- ・ 図書購入費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30,000千円

- 財源には、一億円の金塊基金が一部充てられており、決算後には、数字と共にそのストーリーを分かりやすく市民に伝える工夫をお願いする。

## 8【むすび】

ここ数年、図書館建設において、建築家による個性的な建物や、複合施設といった新しい形の図書館が生まれているが、当市の（仮称）新津名図書館も同様に、最新の機能と人口に対する望ましい広さ、蔵書冊数が叶えられている。

設計段階での先進地視察（瀬戸内市立図書館、西脇市立図書館、明石市立図書館等）で得たことを効果的に取り入れ「図書館は静かにするところ」という概念を覆すような「動」と「静」が調和した空間となっている。館内は、柱や書架のみならず建具にまで自然素材を生かした造りとなっており、ディテールに至るまで精巧に設計されていた。

新しい図書館に、家族や友人、学生等が集い、閲覧席は、本と向き合う至高の時間を求めて一人訪れる読書家にも心地よい、それぞれの居場所がここにはある。

近年、情報通信機器（スマートフォン等）の急速な進歩により必要な情報を何時でも得ることができ、自分が必要とする情報だけを集めがちであるが、それに対し図書館は、多様な情報に目を向けることができる機会の貴重な場であり、個人の知的好奇心が偶然の出会いにより広がり、自己の探究心をより深める場所となる。

今まで、図書館を訪れなかった方々にも興味をもってもらい、また、長年図書館を大切に想ってくださっている皆さんに喜んでもらえるような、新しい図書館の姿を見せていただきたい。

平成9年竣工の東浦図書館、平成30年リニューアルの北淡図書室、そして今回、老朽化していた津名図書館（昭和63年竣工）の建設により施設面において、整備がなされた。今後は（仮称）新津名図書館を軸として2館3室体制の充実を図るとしているが、利用状況について、来館者数や貸出冊数などの成果指標と併せて、5年、10年後の事業の効果をより明確に図ることができる設定を検討されたい。「図書館×まちづくり」は「人づくり」である。中長期的な人づくりは数字で計る指標を超えたところにあると思うので、指定管理者制度などの契約を基本とするシステムのもとでは本来の目的を達成するのは困難である。

新津名図書館がこれから先、地域の文化活動拠点として機能するためには、必要な人数の図書館司書を配置し、司書を中心とした選書の在り方を構築することが肝要である。

人が集まるのを待っているのではなく、人を呼び込む魅力ある図書館の運営を大いに期待します。